

佐賀市 59 歴史探訪

九州最古の貝塚

今回は、佐賀市教育委員会が金立町千布で発掘調査を実施した東名遺跡^{ひがしなま}について紹介します。

東名遺跡では、平成5～8年にかけての発掘調査によって、今から7,000年前(縄文時代早期)の集落と墓地を確認しました。その後、巨勢川調整池を建設するため、周囲を5m程掘り下げたところ、集落と同時期の貝塚が偶然発見されたため、平成16年度から本格的な調査を開始しました。

九州の縄文時代の貝塚は、熊本県を中心に130カ所ほどが知られていますが、佐賀平野では今まで発見されておらず、東名遺跡が初めての確認例となりました。しかも発掘調査が行われた貝塚としては、九州で最も古いものでした。

調査の結果、ヤマトシジミ・ハイガイ・アゲマキ・カキを中心とした大量の貝殻のほか、シカ・イノシシをはじめとした動物の骨や魚の骨、ドングリなどの木の实、土器や石器などが発見されています。その中には貝殻の腕輪や、動物の骨に細かい文様をつけたアクセサリーなども含まれていました。さらに、木をくりぬいて作った器や木を薄くさいて編み込んだカゴなども発見されており、当時の技術の高さには目を見張るものがあります。

調整池の中で発見された6ヶ所の貝塚のうち、第1・2貝塚について平成19年度まで発掘調査を実施しました。残りの4ヶ所の貝塚については現地に盛土をし保存しています。

東名遺跡の調査によって発見された資料は、どれも国内最古級で、当時の人々の生活や文化を知る上で大変貴重な資料です。

一口メモ 巨勢川調整池内にある管理棟の一角に、東名遺跡ガイダンス展示室を設置しています。貝層の剥ぎ取りや貴重な出土遺物を展示しています。是非一度ご覧下さい。
開館：(火～金)10:00～13:00、(土・日・祝祭日)10:00～16:00
※毎週月曜休館、入場無料



▲シカの角で作ったアクセサリー



▲編みカゴ

